



SUZUKI GS750

▲外装が北米仕様の緑がかった青に変更されている以外はノーマルの2型。この年式から、フロントのディスクブレーキがダブルになっている。なお、GS750のフロントフォークは35mm径を採用している。

ライダーの最善を追求した結果得られたシンプルな造形美。



▲▲▲シャシーダイナモ上で、「全開走行2万km」という過酷なテストをクリアした後に発売されたGSシリーズ。耐久性は抜群で、現代でも十分楽しめるパワーユニットだと感じた。シリンダーヘッド上には4気筒のスパークプラグ周辺を均一に冷やすべくラムエアシステムを装備していた。

▲1GT以前の別体方式から、カバーが装着され一体式となった計器類。スズキ車の特徴である赤色LEDのシフトインジケーターを装備する。
 ②③④1000と比べると、全体的にシンプルな印象の外装だが、フューエルタンクは、キャップ部をキー付きリッドがカバーする装備を有する。なお、GSの両面キーは、つまみ部が樹脂モールドされ、高級感を演出した仕上げとなっている。以降、この樹脂モールドタイプが主流となっていたのは周知のとおりだ。



▲1②前作GT750の組み立て式から、一体式の片押しキャリパーに変更となったブレーキまわり。77年式の1型は、フロントが軽量化のため車体左側みのシングルディスクだったが、2型よりダブルとなった。ディスク板も2型よりそれまでの組み立て式から一体式へと変更になった。余談だが、輸出仕様のGS1000に採用されていたリヤディスクは、モデル末期まで組み立て式のプレートを使っていた。



GSで8万5000km!

今なお現役
佐野裕次さん

GS/GSXオーナーズクラブ会員で、クラブ主催のツーリングなどにも積極的に参加する佐野さんとGSが、9年間で刻んだ距離は8万5000km! その間エンジンは一度オーバーホールを受けたものの、ほかに絶好調だという。外装は2型オリジナルの茶メタ外装も所有し、気分によって付け替えて楽しんでいるのだそう。なお、左ページで紹介しているGS1000Sも佐野さん所有であり、GSシリーズにゾクゾクな様子。